



街

ニュース

編集発行／石川県商店街振興組合連合会
〒920-0981 金沢市片町2丁目2番6号 エクセビル7F
TEL(076)222-8779 FAX(076)222-8779

2013 no.97

2013年3月15日

県振連メールアドレス isirengo@angel.ocn.ne.jp

商店街賑わい創出に関する掲載原稿、ご意見、ご感想などお待ちしております!

「地域の絆づくり商店街モデル事業」に3商店街が認定される!

本年度石川県において、商店街が「地域コミュニティの担い手」として、地域の各種団体や教育機関、他の商店街等と連携するなど、子育て支援や省エネ等の地域課題や社会課題の解消にむけ地域と共に活性化を図る取り組みを積極的におこなう事業をモデル事業として認定し重点的に支援する、として公募したものです。

昨年の12月21日、輪島市まんなか商店街振興組合(輪島市)、千代尼通り商店街協議会(白山市)、および柿木島振興会(金沢市)の3商店街がモデル事業に認定されました。各商店街の代表が、パネルを使ってその取り組みやその決意に熱がこもり、知事もそれに応え、「ここが出発点!」、「がんばって!」と熱いエールを送っておられたことが印象的でした。

3商店街モデル事業は、次のとおりです(パネルから一部抜粋)。



1 輪島市まんなか商店街振興組合(輪島市)

高齢者の安心生活サポート事業 ～地域コミュニティの中核的役割を担う商店街～

- 地域の課題
 - ・高齢化率が高い輪島市では、スーパーの撤退や公共交通機能の縮小により、車を運転できない高齢者への買い物支援が必要
 - ・また、買い物代行やゴミ捨て、電球の取替えなど高齢者の日常生活支援のニーズも高い。
- 実施予定事業(平成24年度～平成26年度)
 - ・移動販売、宅配サービス 買い物困難地域を中心に移動販売や宅配サービスを展開。利用してくれる高齢者等との会話を通じ、安否確認とともに、ちょっとした相談事への対応を図っていく。
 - ・コンパクトストア(まんなか出張商店街) 高齢者施設等へ出張販売を実施。施設の入所者のほか、近隣に住む高齢者等にも開放し、実際に目で見ると「買い物の楽しみ」を実感してもらう。
 - ・輪島おたすけ隊による生活支援 “輪島おたすけ隊(ボランティア)”が生活支援サービス(買い物代行や粗大ゴミの回収、電球の取替え、除雪など)を行い、その謝礼として商店街で利用できる商品券(追記・ボランティア貯蓄も)を受け取る仕組み。地域での助け合いを育むとともに、商店街、地域全体の活性化にもつながる。



商店街の商店から取り揃えた商品で移動販売を実施



地域住民も集う介護福祉施設での出張商店街(イメージ)

2 千代尼通り商店街協議会(白山市)

“つながる・ひろがる・にぎわう” ～季節感と文化が香る絆のまち千代尼通り～

- 地域の課題
 - ・地域コミュニティが失われている中、地域全体で「千代尼通り」を核とした地域の活性化、賑わいの創出が必要
 - ・今年3月に電柱地中化の工事が完了。地域の顔として「世代間を超えた多くの人が集い、交流する場」としての機能の充実が必要
- 実施予定事業(平成24年度～平成26年度)
 - ・ひろがるプロジェクト これまで団体毎で活動していた地域の各種団体に、活動の発表の場や他団体との交流の場として、地域の団体同士、団体と地域住民との交流拠点としての



作品の発表と販売を兼ねた常設スペースの設置

機能の充実を図る。

- ・にぎわうプロジェクト 千代尼通りを含めた「まち」全体の賑わいを創出するため商店街と地域の各種団体が企画から運営までを協力しながらイベント等を実施することにより、地域全体で活性化や賑わいの創出に対する意識の醸成を図る。
- ・つながるプロジェクト 地域の大人から子どもへ伝統芸能の継承、子育て支援NPOと連携した商店街をフィールドとした子育て支援、店主が講師となった「まちの知っ得!セミナー」の開催など、世代間、住民間の交流促進の場を提供する。



地元在住の芸術家の作品展示(千代尼通りアートフェスティバル)

3 柿木島振興会(金沢市)

地域や国境を越えて…人情商店街「柿木島」賑わい事業 ～外国人にやさしい商店街～

- 地域の課題
 - ・石川県を訪れる外国人観光客が増加する中、小松空港の国際線の拡充や間近に迫った新幹線金沢開業などにより、地域全体でのおもてなし力の向上が必要
 - ・留学生をアルバイトとして雇っている飲食店もあり、日常的に相互交流を行う中で、国際都市金沢として留学生の生活をサポートするための取り組みが必要
- 実施予定事業(平成24年度～平成26年度)
 - ・「祭」を通じて絆が深まるまち 金沢大学や北陸大学などの留学生に地域の祭りやイベントに参加してもらい、地域の方と積極的に交流してもらうことにより、外国人への接し方を学び、地域全体でのおもてなし力の向上を図る。



地域の祭り(水掛神輿祭り)

また、参加した留学生には、生活習慣や文化の違いを学んでもらい、地域の方は、簡単な会話ができるようになるための外国語学習会を留学生を講師として開催することにより、留学生と地域住民の絆を深めていく。

- ・異国の食文化が漂うまち 飲食店が多い商店街でもあるため、留学生の協力を得ながら外国語の案内パンフレットやホームページの作成、「食」を通じた文化交流イベントの開催、外国の食文化を知るための研修などを実施することにより、外国人観光客へのおもてなしについて学ぶ。



外国語の案内パンフレット(サンプル)

小松中心商店街振興組合連合会（小松中央通り、三日市、八日市、レンガ通り商店街）の取り組み

次世代を担う“こまつっ子”が、鉄道模型に、小松まちや千軒を組み、連ねる“巨大ジオラマ制作プロジェクト”を立ち上げ、小松中心商店街の回遊促進と将来を担う人材の育成を目指す

小松中心4商店街で「特別急行・北陸路の思い出」と題し、「昭和と平成を駆け抜けた北陸特急写真展」が1月下旬まで行われた。30店舗余りのショーウィンドウには昔懐かしの、臨時特急はくたか（上野発）、急行能登、寝台特急北陸、クリーム色の雷鳥、しらすぎ、月光型車両の青雷鳥、リバイバル白山号、または国鉄時代の回遊列車も登場するなど、多彩な「鉄道」パネルが展示される。

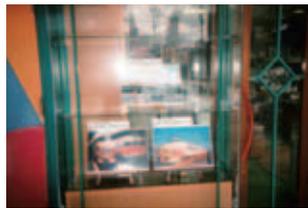
平日とあって年配の人がチラホラ行き交う。店内では、店主と「これに乗って大阪へ行った」からはじまって、当事の状況はこうだったといった昔懐かしの旅の話で盛り上がる。「ほかのお店ものぞいてみよう!」、商店街は回遊促進がはかられていた。イベント時のように爆発的に人が集まるということはないが、いつも少しずつ、ダラダラと来てくれることが、商店街にとってはことのほかありがたい。その後、小松市役所でもおこなわれる。

4月には北陸線特急「能登」などで活躍した「ボンネット型車両」が駅周辺に展示される。北陸新幹線金沢開業が近づくなか、鉄道愛好者や小松市民が中心商店街に足を運んでくれるきっかけとしたい。

なお、中心商店街には、何軒かの町屋がデントと構えており、小物の店頭商い風情が商店街に彩りを添えています。まちなか回遊の強力なスポットが見込まれます。

土、日曜日は、子どもたちやファミリー層を中心に、「『ボンネット型特急電車』の塗装は全部で何種類あるでしょうか?」クイズ式のラリーがおこなわれています。手に手にカードをもって、お店を探しながら、結果、商店街全域を回遊するという仕掛けです。当初は、チェック4箇所のスタンプラリーをおこなったが、商店街全域回遊が見込めなかったことから、変更したものの。

三日市商店街の鉄道模型制作工房では、小松っ子千人の協力を得て制作された“こまつまちや”を記した



鉄道模型の巨大ジオラマをまえに、来店するお客さまに子ども店長が「ジオラマを見渡してみてください。商店街の看板を外すと、こんなすばらしい黒屋根瓦の小松まちやが現れます」と説明に余念がありません。

ペーパークラフトの受け取りにはじまり、取り付け、鉄道模型の操作体験など商店街に自然に何回も足を運ぶことが必要になり、最後には、抽選で新幹線のぞみなどの模型とレール、コントローラーがセットになったNゲージ鉄道模型セットがプレゼントされるというお楽しみも待っており、次代を担う子どもたちに商店街の存在、楽しさ、また寄っていくところ、と認識してくれるきっかけとなって、後々までも商店街をこころのふるさと、よりどころ、として活用してくれることが期待されています。

ペーパークラフトは、10種類有り、まちやの特徴である、「切妻平入り」屋根、格子「虫籠」や袖壁などを取り入れており、また看板部分には、店舗名など自由に書くことができることで、仮想商店街のまちづくりに自然に参加できるようになっていることから、学校の社会科の教材に、また公民館課外学習の教材に活用したいとの申し出が多々あり、思わぬ効用、裾野の広がりが見込まれています。

小松中心商店街では、集客・賑わいの核施設が次々と準備されています。昨年の8月完成した「三の市朱門広場」（月1回「蚤の市」が開催されるほか、「歌舞伎市」など様々なイベントがおこなわれている）をはじめ「こまつ曳山交流館」（曳山2基を飾るほか、子供歌舞伎の発信基地として、また町衆文化「技」と「匠」継承の場として活用されます）の5月オープンにあわせ、蔵をイメージした外観の2階建て工事が急ピッチで進んでいます。



また、小松中心4商店街通りの愛称を「歌舞伎横丁プラン」にそう形で、「猫橋鉛屋通り」、「三の市朱門通り」、「れんが花道通り」、「八の市曳山通り」とし、商店街のイメージアップに、またまちなかの商店街に一体感を醸し出す効果が期待できるとともに、小松の歴史文化の良さをアピールしていくこととなります。（取材）

「中心市街地活性化全国リレーシンポジウムin富山市」 コンパクトシティによるにぎわいづくり～「市民が主役」のまちを目指して～

（平成24年10月30日（火）富山市富山国際会議場で）

平成18年の改正中心市街地活性化法の施行5年経過、118の基本計画が認定され、うち8市が2期目への取り組みがはじまっています。

「日本の元気は地域から」をスローガンに、まちの「顔」である中心市街地の更なる活性化に向け、鹿児島市を皮切りに岩手県久慈市に至る、全国21市による先進的な取り組み事例の紹介と現行施策の検証が行われました。富山市の基本計画は次のとおり。

（第1期基本計画：平成19年2月～平成24年3月）

- 1 公共交通の利便性の向上
市内電車環状線化事業：セントラムの整備など
- 2 賑わい拠点の創出
グランドプラザ整備事業：全天候型多目的広場整備
- 3 まちなか居住の推進：自転車市民共同利用システム、魅力ある都市景観の整備

（第2期基本計画：平成24年4月～平成29年3月）

- 1 公共交通や自転車・徒歩の利便性向上～多様で質の高い移動環境の整備、人が活発に動き回遊する中心市街地の形成～
- 2 富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出～内外の活発な交流により富山らしい新しい文化の創造される中心市街地の形成～
- 3 質の高いライフスタイルの実現～多様で質の高いライフスタイルが実現する中心市街地の形成～

（基調講演）「学生と連携したまちづくり」

大西 宏治氏 富山大学人文学部准教授

- 1 「まちなか研究室」（愛称：MAGnet）設置
大学の卒業生から富山で生活したという実感がなく、と聞かれていたことから、まちに大学生を関わらせる装置として設立される。
 - ・大学生が地域とつながり成長する
 - ・まちづくり活動する人々がつながる結節点
 - ・学生がまちづくりへ参画
- 2 想定した事業プロセス
 - ・ステージⅠ（スタート）（大学生の来街促進）
ゼミ（商店街でのフィールドワーク）、サークル、団体へ場所の提供、音楽ライブ・カフェ等イベントの実施
 - ・ステージⅡ（中間地点）（大学生と地域との交流）
商店主等を招いてのトーク&交流会、地域住民を招いての研究発表、大学生による市民向けワークショップの開催
 - ・ステージⅢ（ゴール）（大学生と地域との連携）
大学生と、商店街・起業・住民・行政が連携し事業提案する。協働実施、中心市街地活性化へ寄与する。

平成24年度第2回全国商店街青年部指導者研修会

年に2回開催される、青年部指導者研修会。今回は東京、中野で開催されました。中野の町は以前にも視察研修されているため、今回の研修会は講演が主となり、様々なお話を聞くことができました。



特に今回感じたのは「コミュニティー・ビジネス」という言葉。また「地域密着型」という手法です。

東日本大震災の後、「商店街はそれぞれの地域のコミュニティーの中心をなす」ということが論じられてきました。以前は大型店との競合

や生き残りなどが、この研修でも多く語られていましたが、今は「商店街の基本的役割」について議論されることが多くなったように思われます。秩父市のみやのかわ、佐久市の岩村田本町など、今回の研修でも取り上げられた商店街には、地域になくはならない存在としての商店街の姿があったように思われます。

もちろん、我々は利益を上げることも考えなくてはならないでしょう。しかし、それだけでなく、我々商店街が「地域に何ができるのか」を考えなくてはなりません。また、そうすることで商店街の今後のあり方が、自然と浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

我々商店街は地域文化、歴史、安全、その一端を担っているという自負を持つべきだと考えさせられる研修会でした。

武蔵商店街振興組合 副理事長 太田 有彦

北陸新幹線金沢開業効果を石川県全域に拡げよう！ 「その先にあるおもてなしサミット」(石川県観光交流局主催)

平成24年11月20日(火) 七尾市サンビーム日和ヶ丘で開催

新幹線開業は、千載一遇のチャンス。新幹線終着駅のその先にある4温泉地が独自に取り組む「おもてなし」をとおり、その効果を最大限に引き出すための取り組み工夫の一端を知り、イメージアップ・リピーターの確保、加賀能登誘客への重要なヒントをつかむ。

1 新幹線終着駅のその先にある温泉地の取り組み

1 黒石温泉郷(黒石観光協会)(青森県)2010年12月新青森駅開業

- 焼きそばのまち・ゆるキャラ登場
- こけし行灯(110体)の展示、点灯
- 「おもてなしのこころ」パンフ全市民に配布
- 広域連携 近隣市町村とひとの交流・融通
- まち歩き開発

2 指宿温泉(指宿観光協会)(鹿児島県)2011年3月鹿児島中央駅開業

- 地元食材を使った(食の開発)おもてなし:ご当地グルメ・温たまらん丼(砂むし温泉とのコラボ)、そら豆スイーツ(日本一の「そら豆」とのコラボ)
- 竜宮伝説発祥の地にちなんだJR観光特急「いぶすきのたまたま箱号」デザイン、ホテルも玉手箱料理、タペストリー設置、まちなかも「いふたま」一色!
- 指宿温泉華の会の活動:打ち水大作戦!N指宿(宿の日)に湯茶のふるまい、など
- 指宿市の取り組み
 - ・ゆるキャラの開発:たまらん3兄弟のプログ
 - ・市民ボランティア「いふたまのおもてなし隊」による、乗客に手を振る運動
 - ・「いふたま千本旗」プロジェクトの開発
 - ・朝フラ!(ダンス)によるおもてなし、など
- *「観光」から「観光産業」へ・「パフォーマンス産業」から「リーディング産業」へ

3 加賀温泉・レディカガ 観光庁長官賞受賞温泉郷PRの素材づくり

- ・「レディカガプロジェクト」立ち上げ(衛生組合青年部発案)2011年11月パンフ作成、CM動画サイト(アクセス30万超えるー全国に知れ渡る)、「おもてなし」取り組みの問い合わせ多数
- ・動画第2段発表 2012年6月のオープニング時、100人駅にて歓迎。パンフ、ポスター、名刺とホルダーを作成、4か月毎日お出迎え・お見送りする。
- ・第4回表彰(発足から1年で受賞する)



*山代メンバーでスタートしたが、今はパン屋、呉服店、商店、芸妓、木地師、陶芸家など様々な人達が集まり、会員220人。マップ登場42人。3温泉と連携できたこと。山・海・川3者一緒になって発信していくことの大切さを知る。

4 和倉温泉

平成3年観光客数(年間)167万人が平成23年には90万人に激減。現在120万人に回復!がんばっている。

- ヨットハーバー完成(平成23年)、高校総体ヨット競技大会(平成24年)
- 和倉温泉マスコットキャラクター「わくたまくん」、誕生から4年。13種商品化

○「東京ガールズコレクション」とコラボ・首都圏観光PR

○大原学園によるわくたまくんの晴れ着衣装の出展

○銀座パレードゆるきゃら大行進:沿道に1万2千人

○和倉温泉湯つりパーク緑地広場(わくたまくんモニュメント、ベンチ)

○にぎわい再生協議会女性部会:花でかざろう和みのまち和倉ー花が育む地域の和ー

○「わくら湯ばんと」による温泉観光ガイド・開運七福神巡り(無料)、など

*食べたことや見たことは忘れるが、人のおもてなしはいつまでも記憶にとどめる。



2 講演「石川県をおもてなし立県に~日本人にしかできない気づかいの習慣」

講師 上田 比呂志氏 大人の寺子屋 縁かいな代表

- 1 おもてなしの基になるのは、「気づかいの心」である。
- 2 自身の一挙手一投足が人格をつくる。人格や人望をつくるのは、自身の行動。
- 3 日本文化の気づかいのルーツは、江戸時代から。「江戸しぐさ」:気づかいのルールづくり「傘傾げ」、「うかつあやまり」、「時泥棒」など
- 4 「ディズニー」のおもてなし=あたりまえのことを、「徹底」的にやり抜くことで、それがあたりまえでなくなってくる。
来場者のうち95パーセント以上がリピーター。なぜか。
 - キャスト同士のコミュニケーション(従業員満足)
 - 人材育成のためのコミュニケーション(teachingとcoaching)
 - ・ディズニー流のコミュニケーションサンドウィッチ法
 - ・「やる気のコツ」:スタッフ全員のいい笑顔は「自分自身の喜び」から
 - ゲストとのコミュニケーション:五感を重なりあわせて接客
 - ゲスト同士のコミュニケーション:お客の物語づくり、ストーリー消費
 - 人の気持ちを動かすコミュニケーション:感動の共有化“幸せの循環”
- 5 むすび
 - ・能力主義から心力主義へ:まず、自らの感性を磨くことから
 - ・感動の共有化
 - ・良い仲間づくりは、大きな成果として結びつく。
 - ・喜びは皆で分かち合うことで掛け算に、問題は皆で取り組むことで割り算になる。
 - ・お客様にご満足頂け、ファンになっていただくためには、3つの力が大切。心力(心の在り方)+能力(スキル)+組織力(仕掛け)
 - ・ディズニーを超えるもの(文化の壁):アメリカ・チップ社会、日本は・無報酬=「絆」文化。これからは、日本人としての役割が大事となってくる。「おもてなしの心」は、気づかいの心。日本にしかない。世界に発信している。日本の強力な武器となる。石川県からぜひ発信して欲しい。

まちなかの商店街活性化のために！商店街のあり方を示す好事例として、名古屋中心商店街の積極的な取り組み紹介

(平成24年度第1回都道府県振興職員講習会(全振連主催)・名古屋にて)

講演Ⅰ 演題 “カリアンナイト”から商店街イベントのノウハウを学ぶ 講師 成田光宏氏 刈谷駅前商店街振興組合副理事長

駅周辺にデンソー株式会社、アイシン精機株式会社など大企業5社の本社がある企業城下町という地域特性から、商店街には、飲食店、居酒屋などが自然と集積、飲食関係が8割弱を占め(物販が非常に少ない)、女性や子どもには近寄りやすい「夜の街」のイメージの強い環境にあった。



「刈谷市中心市街地活性化基本計画」(平成13年策定)で駅周辺地区が「都心交流エリア」と位置づけられたのをきっかけに、グルメマップの作成、地域情報誌の発行(平成14年)、風俗店との懇談会の設置(平成17年)、昼も夜も歩いて楽しい健全な街を目指す。

① 「ほろ酔いカリアンナイト事業」

平成19年愛知県活性化モデル商店街として「スナック・居酒屋はしご事業」(カリアンナイト事業の前身)、「アクアモールイルミネーション事業」、「まちづくり協定策定啓発事業」に取り組み、翌年には実行委員会を立ち上げ、コンサルのもと本格実施する。

(商学連携)愛知教育大学と連携し、商店街の骨格軸の一つ。周辺店舗、企業、市民の参加を得て行うアクアモール(小川のせせらぎの遊歩道)沿いのイルミネーション事業

② 取り組みの成果

- ・新規顧客の増加 女性客、家族連れが増えてきたこと、昼食ランチに主婦でくる。
- ・店舗間の交流ができてきたことから「カリコン」(まちコン)の実施
- ・風俗店との共栄 平成17年から懇談会を継続開催、地域のルールづくりをすすめている。地域パトロールと美化活動を兼ね「花と蝶のパトロール」実施。地域貢献浸透。
- ・イベントの重要性
店舗だけの賑わいではなく、地域全体がお祭り(飲み歩く+外でのイベントで楽しめる→お店がPRできる)

講演Ⅱ 演題 地域、複数大学、市民とのコラボによる商店街事業の活性化 講師 西脇正倫氏 西脇プランニングオフィス代表

○ 八事商店街振興組合の事例

名古屋市東部の丘陵地にある当商店街は、歴史と共に栄えてきた地域であったが、地下鉄環状線の整備で便利な交通結節点となったものの、それまで根付いていた地域密着の店舗の大幅な減少、代わって大型店・チェーン店の立地がすみ、かつての個性が希薄化してしまう。

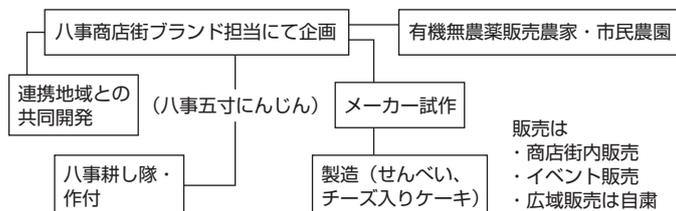
① 「八事の森まつり」(春祭り、種くばり、秋祭り、収穫祭)の開催

平成17年、地域との結びつきを強化し商店街の再生を図るため、「八事の森」を活用し、名古屋市昭和区、NPO八事里山の会、ゆめ緑道ごきそ、地元子供会など市民団体と連携したコラボイベント「八事の森の春祭り」を開催。商店街は連携の力を実感。それ以来、地域の人たちと一緒にやっという意識が高まる。以降地元のお寺「興正寺」、学校など連携の幅を広げながら「八事の森まつり」を開催、まちづくりをすすめる。

② 商店街プロデュース地域ブランド商品(八事スタイルを提案する商品群)の展開

平成19年「あいちの伝統野菜」に選ばれた「八事五寸にんじん」を商店街のブランドに高めようと店主たちの勉強会はじまる。

当地区は、スローフードなどに関心が高く(高級住宅地域)、「無添加」を発信することで地域住民に積極的に支持されることから、オリジナルメニューの開発を進める。同時に地元でもそれを育ていこうと、夏に小学生に種を配布し、家庭で栽培してもらったものを持ち寄って収穫祭を行うなど、地域と共にまちの魅力を育てる「八事耕し隊」という取り組みもおこなっている。



○ 藤が丘中央商店街振興組合の事例

当商店街は、名古屋市営地下鉄東山線およびリニアの藤が丘駅や東名高速道路名古屋インターといった都心と郊外を結ぶ交通の結節点にある。駅前アーケードを中心に90店舗余りが集積している。

当地は、東部丘陵地帯と総称される野山であったが、昭和42年に始まる「藤が丘土地区画整理事業」により東の玄関と呼ばれるようになる。

しかし、グリーンロードを軸とする東部開発による、廉価で開発余地の大きな後背地を活用したロードサイド展開。東部丘陵線(リニア)が開通するに及んで「西のはずれ化」となり、立地変化とともに商店街としての総合性を失っていく。

① 「愛・地球博」を契機に住民とのコラボはじまる(「藤が丘まちづくり推進協議会」)

まちづくりを支える3つの活動展開

- ・名古屋の東の玄関にふさわしいポスト万博駅前活性化の研究
- ・明が丘公園(富士浅間社)の活用検討
- ・照か丘地区の交通計画

② 隣県三重県東紀州との地域間コラボ(東紀州観光まちづくり公社)

- ・ニーズ
まちづくり公社-紀勢道延伸による交流機会を発信するための拠点づくり
- ・商店街-集客拠点確保、駐車場経営にかかわる商店街収益確保

・取り組み

事務所の道路側半分をアンテナショップ「南三重ふれあい市場」(熊野地方の特産品などの販売)に改築

- ・愛知学院大学経営学部の学生が参画((株)シード)し、商店街を盛り上げるため事務所前広場で「青空市」を開催するが、商店街と藤が丘をつなごうという明確な目的も意識なくワンディショッパー(ブース)を行った結果失敗する。

③ 商店街、二つの学部、観光公社という3つの異なる主体のマルチ

コラボの開始-商学連携による愛知県と三重県共通の地域資源を活用した商店街事業活性化-本当のコラボ始まる。

・ニーズ

- まちづくり公社-前掲
- 愛知学院大学-商品開発、地域資源の活用
- 名古屋学芸大学-社会的な問題解決の手法としてのデザイン能力を持つ学生の育成
- ・取り組み第1弾「新嫁ういろうと姫サンマ」の販売、ふれあい市場、青空市を活かし展開

○ 現況と今後の展開

- ・東の中心となるための地域住民に認められる商店街個性の確立
- ・商店街が内包される地域課題の明確化とその中での商店街の位置づけ
- ・名古屋市の集約的都市構造化のための東の集約拠点としての藤が丘の地域属性を残した地域スタイルの構築と提案
- ・コラボ事業者の目的集約によるパワーアップ

○ 商店街におけるコラボレーションの意義と展開

現代の商店街問題は地区課題の中に位置づけられるものであり、販促活動だけでは解決困難。社会的な取り組みが必要。総合的な解決ノウハウを持たない商店街にとって地域課題の一部としての商店街問題を解決するためには、特定の専門性を持つ複数の事業主体による対応が必要。

八事商店街では、八事サロンの実現を模索。藤が丘商店街では、集約型都市構造の中の集約拠点としての藤が丘地区の位置づけの中で大学と商店街がタウンプロデュース・パートナーとしてまちづくりを推進することを強調したい。

○ 地域スタイルと商店街

- ・ふるさと都市(まち)づくり
- ・都市コミュニティの確立が今後の社会計画のポイント
- ・共助、共生社会の位置としての地区
- ・商店街はコミュニティ機能の一翼を担う。